

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 黒崎 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

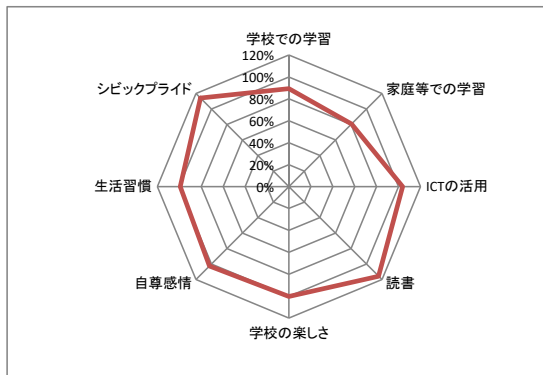
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する問題は、全国の平均および福岡県の平均を上回っています。言葉の特徴や使い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項にやや課題が見られます。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	とりわけ文章を読んで理解したことと知識や経験を結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする問題に関する正答率が高くなっています。	
	努力が必要な問題	文脈に即した漢字を書いたり、歴史的仮名遣いから現代仮名遣いに書き改めたりすることに課題が見られます。文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える問題への無回答率がやや高いです。	
数学	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域「数と式」「関数」「データの活用」に関する問題は、全国の平均を上回っています。「図形」に関する問題に対して課題が見られます。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	とりわけ事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明する問題、また累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題への正答率が高くなっています。	
	努力が必要な問題	四分位範囲の意味の理解、また数と整式の乗法の計算、表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることにやや課題が見られます。	
英語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域「読むこと」に関する問題は、福岡県の平均を上回っています。「聞くこと」「書くこと」に関する問題に課題が見られます。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「事実や情報」「考えや意図」を伝える問題に関して、事実と考えを区別して読み取ることができています。また、日常的な話題について自分の置かれた情報を踏まえ、必要な情報を読み取れています。	
	努力が必要な問題	社会的な話題について、短い説明の要点を捉える問題、相手に依頼する表現を正確に書くという問題に関して、課題が見られます。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「読書が好きか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒が73.1%と全国平均を大きく上回っています。
○「ICTの活用」で1・2年生の時にICT機器を活用したと答えた生徒が97.9%で全国平均を上回っています。
○「学校に行くことが楽しい」「友達関係に満足している」に関して肯定的に回答した生徒の割合が全国平均を上回っています。また、「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合が非常に高く、シビックプライドが醸成されていることがうかがえます。
●自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てを意識して発表することに苦手意識があるようです。授業で自分の考えをもち、根拠をもとに発表する場の設定をすることが今後の課題です。
●1日当たりの勉強時間、週末の勉強時間に関して、1時間以上と答えた生徒の割合が全国の平均を下回っています。家庭学習のさらなる定着が大切です。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

授業の「まとめ」や「振り返り」を文章で書くことで、自分の学びを実感し、次回の授業に生かす取組を継続しています。また、ワークやプリントなどを併用し、学習した内容の定着を図るように働きかけを行っています。

② 家庭生活習慣等に関する取組

定期考査前には、学習計画表を活用し、見通しをもって学習に取り組むことができるように呼びかけを行っています。また家庭学習で、学習した内容を復習できるように課題を継続して配布しています。